

土地利用

(1)

現行都市マスタープラン(平成12年3月策定)における地域のまちづくり方針※赤字は、土地利用に関する方針

現行都市マスタープラン概要版P16より

高木町・西町地域のまちづくりの方針

- ・「農」のある風景を基調とした緑あふれるまちなみをつくります。
- ・農地を活かして、安全で心豊かに暮らせるまちをつくります。
- ・市民の主体的な活動を活かし、「協働」のまちづくりを進めます。
- ・隣接市との連携を深め、日常生活の便利さと快適さの調和を図ります。
- ・学校などの公共施設の機能の向上、連携を図り、コミュニティや防災の中心となる空間をつくります。

光町・西町地域のまちづくりの方針

- ・崖線や企業敷地内の緑、農地を守り、つなぎます。
- ・住宅と先端企業が調和した魅力あるまちをつくります。
- ・市民の生活・交流の拠点となる魅力ある駅前空間を整備します。
- ・国立駅北口周辺をはじめとするまちづくりを進めるため、隣接市との連携を強化します。
- ・学校などの公共施設のまとまりを活かして、コミュニティや防災の中心となる空間を整備します。

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

『豊かな緑の保全』への対策

【対象】生産緑地がまとまって分布するエリア

- ・ゆとりある住環境を維持するための土地の細分化の抑制
- ・農地や緑の減少を抑制するまちづくりの推進

『落ち着いたある住宅地の保全』への対策

【対象】第1種低層住居専用地域指定地区

- ・落ち着いた、ゆとりある住環境への更新を促す土地利用規制の適用
- ・耐火性の高い建物へと建替の促進

『生活に根差した商業地の確保』への対策

【対象】国立駅周辺地区

- ・市西部の生活拠点としての国立駅周辺でのまちづくりの推進
- ・周辺の都市計画道路沿道における市民生活を利便性・快適性を向上させるまちづくりの推進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- ・宅地の細分化を抑えるための対応が必要である
- ・農地・緑の減少を抑えるための対応が必要である
- ・けやき台団地の再生に向けた対応が必要である
- ・公共施設等の活用について隣接市と連携するための対応が必要である
- ・国立駅周辺の利便性を高めるための対応が必要である

第1回地域懇談会(11/5, 11/9)におけるご意見(地域の現状)

- ・小さな開発によって、小規模な家が増えているのが残念である。土地の細分化を抑制する必要がある。
- ・まちづくり条例の最低敷地面積の制限を、500㎡以下の土地にも適用できるようにするべき。現行の小規模開発事業指導要綱では強制力がなく、土地の細分化を抑えられない。また、要綱をもっと周知するべき。
- ・良好な住環境を維持していきたい。住宅地であることは良い。
- ・農地の宅地化が進行している。このままでは国分寺は緑のまちと言えなくなるのではないか。
- ・光町では、農地が宅地化されている。
- ・生活していて周辺の緑が減っているのを実感する。
- ・けやき台団地では、5階建の建物が多し。高齢化が進んでおり、建替えを検討している。エレベータの設置、容積率など、崖線区域の制限を緩和してもらいたい。団地の再生を目標に取り組みを進めており、周辺の高層化に対応するためにも基準緩和が必要と感じる。
- ・立川市の図書館は設備が整っているのでよく利用している。公共施設についても近隣市と連携して取組みを行ってほしい。
- ・東京都心だけでなく、立川方面も重視したまちづくりをしてもらいたい。防災、教育、医療など、多摩地域全体の広域連携を視野に入れてほしい。
- ・日常の買い物は国立が中心である。立川へも同程度の距離なので、大きな買い物は立川へ行くことが多い。
- ・商店街では、大型商業施設とは張り合えないので、小さいなりに個性のある商店を作っていけたらよい。
- ・光町では、新しく若い人の商店ができ、新しい業種が入ってきているので良い。
- ・まちの再生を行っていくためには、小規模多機能型の介護施設の誘致なども検討してはどうか。介護施設は雇用を生み、人が集う場所になりうる。
- ・市内の状況は30年前からほとんど変わっていない。国分寺駅北口の再開発だけ、やっと整備され始めた。
- ・容積率や建蔽率を緩和し、土地の高度利用を検討するべき。
- ・何をしても若い人がいないと感じる。光町1,2丁目では近年小規模な住宅やアパートが増えており、世帯数が増加している。
- ・まちづくりには若い人の意見を重視して集めていくべき。

懇談資料1で示した光町・高木町・西町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：崖線の緑やまとまりある農地と住宅地が調和した落ち着いた住環境を保全します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①土地利用の細分化の抑制	—	●	●
②崖線の緑やまとまりある農地の減少の抑制	●	●	●
③緑豊かな住環境に向けたまちづくりの推進	●	●	●
④けやき台団地におけるまちづくりの推進	—	—	●
⑤隣接市と連携したまちづくりの推進	●	—	●

方針2：崖線の緑と調和した良好な住環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①宅地内における空間の確保	—	●	—
②崖線に残る緑地の減少の抑制	●	—	●
③緑豊かな住環境に向けたまちづくりの推進	●	●	●

方針3：国3・4・7号線等の幹線道路を活かした住環境に配慮した沿道環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①日常生活の利便性を確保する沿道環境への誘導	●	●	—
②道路沿道における防火性の高い建築物の立地誘導	—	●	—

方針4：国立駅北口周辺における地域の利便性を高める街並みを形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①国立駅北口周辺の魅力あるまちづくりの推進	●	●	●

方針5：公益財団法人鉄道総合技術研究所の豊かな緑を守り、活かした住工共存の緑豊かな環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①公益財団法人鉄道総合技術研究所内の緑の保全	●	—	●
②緑豊かな市街地環境に向けたまちづくりの推進	●	—	—

高木町・西町地域のまちづくりの方針

- ・「農」のある風景を基調とした緑あふれるまちなみをつくりま
- ・農地を活かして、安全で心豊かに暮らせるまちをつくりま
- ・市民の主体的な活動を活かして、「協働」のまちづくりを進めま
- ・隣接市との連携を深め、日常生活の便利さと快適さの調和を図りま
- ・学校などの公共施設の機能の向上、連携を図り、コミュニティや防災の中心となる空間をつくりま

光町・西町地域のまちづくりの方針

- ・崖線や企業敷地内の緑、農地を守り、つなぎます。
- ・住宅と先端企業が調和した魅力あるまちをつくりま
- ・**市民の生活・交流の拠点となる魅力ある駅前空間を整備**します。
- ・国立駅北口周辺をはじめとするまちづくりを進めるため、隣接市との連携を強化しま
- ・学校などの公共施設のまとまりを活かして、コミュニティや防災の中心となる空間を整備しま

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

『安心して歩ける歩行空間の形成』

【対象】 主要幹線道路に該当する都市計画道路

- ・ 幹線道路となる都市計画道路の整備の推進によるゆとりある歩行空間の確保

『安全に通行できる自転車道の形成』への対策

【対象】 都市計画道路(全般)

- ・ 自転車ネットワークの形成に向けた検討の推進と、対象となる都市計画道路の整備の推進
- 【対象】 国3・4・7号線, 国3・4・10号線, 国3・4・17号線
- ・ 主要幹線道路となる都市計画道路の整備の推進

『誰もが散策を楽しめる道の形成』への対策

【対象】 崖線の緑

- ・ 崖線の緑を活用した散策方法等の検討

『市内の交通を担う道路の充実』への対策

【対象】 未整備都市計画道路

- ・ 都市計画道路の整備の推進

『住宅地内の狭い道路の拡幅の推進』への対策

【対象】 住宅地内の道路

- ・ 住宅地内での壁面後退による道路幅員の確保の推進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- ・ 歩行空間・自転車走行空間を確保するための対応が必要である
- ・ 生活道路における道路空間を確保していくための対応が必要である

第1回地域懇談会(11/5, 11/9)におけるご意見(地域の現状)

- ・ 安全に歩いたり自転車で走れる道づくりをしてほしい。
- ・ 高木町は歩道が狭くて怖い。子ども連れの母親は安心して通れない。
- ・ 戸倉通りは狭く、通るのが怖い。自転車も走れない。通学路としても安全面で問題がある。
- ・ 稲荷坂通りもバスが走っているが、狭くて歩行するのに危険である。
- ・ 稲荷坂通りは狭く、バスもすれ違えないほどなので、自転車での利用を控えている。
- ・ 都市計画道路だけでなく、生活道路の整備計画もしっかり作るべき。
- ・ 都市計画道路、主要生活道路による道路網の骨格を決め、まずはそこだけでも幅員6m以上に整備するべき。また、それらの道路に接する道路は幅員4m以上に順次整備してもらいたい。
- ・ 道路幅を確保するためには、新しい方策を考えないと進まない。例えば建蔽率を緩和し、沿道の地主が共同でビルを建てるように指導することはできないか。
- ・ 第2小学校の東西道路が狭く、危険である。
- ・ 第8小学校に入る道が急に狭くなっており、危ない。
- ・ 空き家が点在しており、近年増加している。更地にして道路用地に活用できないか。
- ・ 国分寺駅北口の再開発ばかり進んでいるが、他の地域も利便性を向上させてほしい。最優先に進めるべきは道路整備である。
- ・ 幹線道路は近隣市と協力し、広域連携を図ることが重要である。
- ・ 30年ほど前に国分寺市に移り住んだ時に、都市計画道路の計画もあり、道路が広くなると期待していたが、全く進んでいない。
- ・ 車社会の時代にも関わらず国分寺市は道路が貧弱なので、市外からの人が入ってこない。
- ・ 国立市では一方通行もある。格子状に道路が整備されているからこそできる。一方通行にするには沿道住民の理解も必要だが、交通の改善のための方法として考えられるのではないか。
- ・ 市の北西部はぶんバスが少ない。
- ・ 高齢者でも広い範囲で活動できるよう、公共交通、バスの整備を充実させてほしい。
- ・ 立川駅の駐輪場は有料だが広く、国立駅より利用しやすい。

懇談資料1で示した光町・高木町・西町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：国3・4・7号線等の地区内の幹線道路を活かした安全・快適な空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①都市計画道路の整備による歩道・自転車走行空間の確保	—	●	●

方針2：日々の生活における快適性を高める地区内の道路を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①主要な生活道路における道路幅員の確保	—	●	●
②国立駅へのアクセス機能の向上	●	●	●

高木町・西町地域のまちづくりの方針

- ・「農」のある風景を基調とした緑あふれるまちなみをつくります。
- ・農地を活かして、安全で心豊かに暮らせるまちをつくります。
- ・市民の主体的な活動を活かし、「協働」のまちづくりを進めます。
- ・隣接市との連携を深め、日常生活の便利さと快適さの調和を図ります。
- ・学校などの公共施設の機能の向上、連携を図り、コミュニティや防災の中心となる空間をつくります。

光町・西町地域のまちづくりの方針

- ・崖線や企業敷地内の緑、農地を守り、つなぎます。
- ・住宅と先端企業が調和した魅力あるまちをつくります。
- ・市民の生活・交流の拠点となる魅力ある駅前空間を整備します。
- ・国立駅北口周辺をはじめとするまちづくりを進めるため、隣接市との連携を強化します。
- ・学校などの公共施設のまとまりを活かして、コミュニティや防災の中心となる空間を整備します。

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

『自然の豊かさを感じる空間の形成』への対策

【対象】生産緑地地区

- ・生産緑地等の農地の減少を抑制する取り組みを進め、市の特色ある自然の豊かさを感じることでできる景観の保全

【対象】崖線

- ・崖線の一定のまとまりが見られる箇所の緑地指定などにより、崖線の適切な保全を進め、市の特色ある自然の豊かさを感じることでできる景観の保全

『大規模な公園や緑地の充実』への対策

【対象】未整備都市計画公園(近隣公園)

- ・実態に即した社寺林の保全・活用施策の検討

【対象】鉄道研究所内緑地

- ・事業者と連携しつつ樹林の適切な管理・保全

『小規模な公園や緑地の市内各所への確保』への対策

【対象】未整備都市計画公園(街区公園)

- ・弁天公園の整備の可能性について検討

【対象】公園空白地域

- ・平兵衛樹林地・はけ通り樹林などの既存緑地の適切な保全と、既存の小規模公園、緑地、生産緑地などを活用した都市計画公園の再配置の検討

『歴史やふるさとを感じる風景の保全』への対策

【対象】崖線

- ・崖線の緑の保全と昔ながらの雰囲気や景観を堪能できる崖線の活用方法の検討

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- ・地域の憩いの場となる公園を確保していくための対応が必要である
- ・公園を適切に維持・管理するための対応が必要である
- ・崖線の緑や地域資源を保全、活用するための対応が必要である
- ・住宅地内の緑を確保していくための対応が必要である

第1回地域懇談会(11/5, 11/9)におけるご意見(地域の現状)

- ・地域の人が集まれる場所が、西町緑地以外にない。西町緑地も借地なので、市の公園があるとよい。
- ・第2小学校の裏で、子どもが道路で遊んでいて危ない。子どもが安全に遊べる公園は必要。
- ・小さい子どもが遊べる公園、ボール遊びができる公園、散歩の途中で休憩できる公園など、各地域に合った公園づくりが必要である。
- ・小規模公園は十分に活用されていないか。遊具が古くなったり錆びていたり、撤去されてしまうと子どもの利用は少なくなる。
- ・けやき台団地の公園は、いわゆる遊園で、周辺地域の子どもの利用している。
- ・小さい公園は利用率が高くないので、これ以上増やさなくてよい。大きな公園を整備してほしい。
- ・市の公園で、看板の記載内容が古いままのところがある。管理が行き届いていないのではないかと。
- ・崖線は市特有の資源であり、守っていくべきである。樹林地は残してほしい。崖線が上下で分断されているが、連続性を持たせた方がよいのではないかと。崖線地域でも緑がないところもある。
- ・崖線区域は、緑を確保するために市でも優遇措置や支援をするべき。
- ・けやき台団地や鉄道総研に緑が残っている。市の土地ではないが、緑地や公園を確保できるよう協力してほしい。
- ・鉄道総研は緑が多く残っているが、年1回しか地域に開放されていない。もっと地域に開放してもらい、災害時にも協力を仰げないか。
- ・けやき台団地は緑が多いのだが、緑を維持するのは大変である。保存樹木の制度を充実させ、市でも支援してほしい。
- ・緑の在り方、価値観は変わってきているのではないかと。大きな樹木や芝など、自然の緑が必ずしも良いとはいえないのではないかと。
- ・胎内掘跡は少しずつ活用されているので、市でも整備を支援してほしい。子どもの教育や観光、地域活動にとっても価値がある。
- ・南部の国分寺駅、武蔵国分寺跡などに比べて、北西部は観光・景観資源が少ないと感じる。
- ・戸建住宅で緑を取り入れるかどうかは、敷地の大きさにもよる。狭い敷地では生垣を植える場所がとれない。行政から支援、助成があるとよい。
- ・特定の路線沿道や地域全体で緑化に取り組むのはよい。生垣は手入れが大変なので、植木鉢でも良いなど、取り組み方にも工夫をしてはどうか。性別によっても、ガーデニングへの興味は違いがあるのではないかと。
- ・生垣助成、ブロック塀撤去助成が十分に広報されていないのではないかと。

懇談資料1で示した光町・高木町・西町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：農地や緑地等を活用した公園の適正配置による地域の人々のふれあいの場を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①公園空白地域の解消	—	●	●
②地域の特性を活かした公園の確保	—	●	●
③公園・緑地の適正な維持管理	●	—	●

方針2：地域資源を活かした歴史・文化、自然を感じられる空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①崖線の緑を守り・活かしたまちづくりの推進	●	●	●
②地域資源を活かしたまちづくりの推進	●	—	●

方針3：地域の特性を活かした魅力ある景観を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①崖線等の地域資源を活かした緑豊かな景観の形成	●	●	●

高木町・西町地域のまちづくりの方針

- ・「農」のある風景を基調とした緑あふれるまちなみをつくりま
- ・**農地を活かして、安全で心豊かに暮らせるまち**をつくりま
- ・**市民の主体的な活動を活かして、「協働」のまちづくり**を進めま
- ・隣接市との連携を深め、日常生活の便利さと快適さの調和を図りま
- ・学校などの公共施設の機能の向上、連携を図り、**コミュニティや防災の中心となる空間**をつくりま

光町・西町地域のまちづくりの方針

- ・崖線や企業敷地内の緑、農地を守り、つなぎま
- ・住宅と先端企業が調和した魅力あるまちをつくりま
- ・市民の生活・交流の拠点となる魅力ある駅前空間を整備しま
- ・国立駅北口周辺をはじめとするまちづくりを進めるため、隣接市との連携を強化しま
- ・学校などの公共施設のまとまりを活かして、**コミュニティや防災の中心となる空間**を整備しま

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

『緊急車両が通行できるような狭い道路を改良』への対策

【対象】木造建築物が多い地区、狭い道路が多い地区

- ・主な住宅内道路の道路幅員の確保(道路拡幅、壁面後退等)など、災害に強いまちづくりの推進
- ・沿道建築物における耐火性の高い建築物への更新の促進

『火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進』への対策

【対象】国3・4・7号線、国3・4・9号線
国3・4・10号線、国3・4・16号線
国3・4・17号線

- ・延焼遮断機能となる都市計画道路の優先的な整備の推進

『防災公園や、避難場所の充実』への対策

【対象】地区防災センター

- ・避難場所となる教育施設周辺街路の拡幅、周辺建築物の耐震化を推進
- ・避難場所となる教育施設への誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの導入

【対象】近隣市の避難場所が周辺に位置するエリア

- ・近隣市との連携による避難場所の確保

『個々の建物の不燃化・耐震化の促進』への対策

【対象】木造建築物が多い地区

- ・耐火性の高い建築物への更新の促進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- ・災害時に機能するための交通基盤の強化を図るための対応が必要である
- ・生活道路内の安全性を確保するための対応が必要である
- ・災害時に火災が広がらない街並みとしていくための対応が必要である
- ・防災まちづくりの強化に向けた対応が必要である
- ・一時避難場所を確保するための対応が必要である
- ・日々の暮らしに安心感をもたらすための対応が必要である

第1回地域懇談会(11/5, 11/9)におけるご意見(地域の現状)

- ・防災上の観点からも、都市計画道路の整備は必要である。
- ・第8小学校の南側の道路が狭い。災害時に利用できるか不安。
- ・災害時に消防車が入ってこれない道が多い。JRの高架に遮られると逃げ場がない地域なので心配。地域内に消火栓も少なく、災害時は取り残された地域になる可能性がある。
- ・高木町は古い建物が多いので、災害時が心配。
- ・火災件数は多くないが、高齢者による火事が多くなっている。地震による火災、延焼が不安。
- ・道路が狭いのに、用途地域の変更によって高層の建物が増えると、災害時が怖い。
- ・防災まちづくり推進地区に指定されたが防災倉庫が設置された公園がないので、設置する必要がある。
- ・西町、光町の周辺は、市の防災放送が聞こえづらい。立川市の放送の方がよく聞こえる。
- ・西町では、市の避難場所まで遠く、国立市の避難所に協力をお願いしている。国立市の避難所は設備用品が充実している。
- ・鉄道総研について、研究所なので機密性はあるかもしれないが、災害時には避難場所として活用できるよう協力してもらいたい。
- ・市の人口は増えているが、空き家も増加している。雑草やゴミ屋敷化など、防犯上も問題があると思う。
- ・戸建の高齢独居が多いが、施設に移るなどして空き家になる可能性がある。市が主導して高齢者向け住宅、公園等を整備し、移り住んでもらうのはどうか。
- ・光町で、私道に立っている街路灯が誰の管轄が不明だった。自治会で取り換える費用を市に申請した。
- ・災害時に崩れることを考えると、ブロック塀はない方が良い。しかし、防犯面では敷地内を目隠しできるブロック塀も悪くはない。
- ・住宅地内の道は、ブロック塀の倒壊が懸念される。
- ・警察、消防の管轄が市内でいくつかあるため、連携不足など防犯上の問題があるのではないかと。
- ・国分寺に警察署がないのは不安。小金井警察は遠く、地域の問題にきめ細かくに対応できないのではないかと。
- ・警察署、交番がないのは困る。西町のけやき台にあった交番では、犯罪抑止力があるか不安だった。新しく駐在所ができたので以前より安心感ができた。

懇談資料1で示した光町・高木町・西町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：国3・4・17号線等の道路整備による災害時に備えた空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①延焼遮断機能の向上	—	●	●
②主要な生活道路の道路状空間の確保	—	●	●

方針2：多くの住宅が建ち並ぶ住環境において災害に強い街並みを形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①住宅地における災害に強い建築物への建替え	—	●	●
②地域住民との協働による防災まちづくりの推進	●	—	●

方針3：災害時にも有効に機能する避難場所等を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地区防災センターにおける防災機能の拡充	●	●	●
②避難場所となるオープンスペースの確保	●	●	●

方針4：日常生活に安全・安心をもたらすまちづくりを推進します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地域住民との協働による安全・安心まちづくりの推進	●	—	●

第1回地域懇談会(11/5, 11/9)でのご意見(光町・高木町・西町地域)

土地利用	道路・交通体系
<ul style="list-style-type: none"> • 小さな開発によって、小規模な家が増えているのが残念である。土地の細分化を抑制する必要がある。 • まちづくり条例の最低敷地面積の制限を、500㎡以下の土地にも適用できるようにするべき。現行の小規模開発事業指導要綱では強制力がなく、土地の細分化を抑えられない。また、要綱をもっと周知するべき。 • 良好な住環境を維持していきたい。住宅地であることは良い。 • 農地の宅地化が進行している。このままでは国分寺は緑のまちと言えなくなるのではないか。 • 光町では、農地が宅地化されている。 • 農地の保全や、農業の活性化の方策を考えてほしい。 • いきいき農園など、農あるまちづくりの活動は活発だと感じる。 • けやき台団地では、5階建の建物が多い。高齢化が進んでおり、建替えを検討している。エレベータの設置、容積率など、崖線区域の制限を緩和してもらいたい。団地の再生を目標に取り組みを進めており、周辺の高層化に対応するためにも基準緩和が必要と感じる。 • 生活していて周辺の緑が減っているのを実感する。 • まちの再生を行っていくためには、小規模多機能型の介護施設の誘致なども検討してはどうか。介護施設は雇用を生み、人が集う場所になりうる。 • 戸建住宅は50年ももたない。次世代に市の資源を引き継いでいくためには、医療等の機能を付加するなど、再生方法を検討する必要がある。 • 病院のことが触れられていない。高齢化の時代なので、社会施設の整備も充実させるべき。西町は医療機関が少なく困っている。 • 高齢化への対応として、医療機能を充実させる必要がある。 • 立川市の図書館は設備が整っているのでよく利用している。公共施設についても近隣市と連携して取り組みを行ってほしい。 • 東京都心だけでなく、立川方面も重視したまちづくりをしてもらいたい。防災、教育、医療など、多摩地域全体の広域連携を視野に入れてほしい。 • 日常の買い物は国立が中心である。立川へも同程度の距離なので、大きな買い物は立川へ行くことが多い。 • 高木町の南側の住民は、国立よりも立川で買い物をしている。 • 商店街では、大型商業施設とは張り合えないので、小さいなりに個性のある商店を作っていけたらよい。 • 光町では、新しく若い人の商店ができ、新しい業種が入ってきているので良い。 • 市内の状況は30年前からほとんど変わっていない。国分寺駅北口の再開発だけ、やっと整備され始めた。 • 容積率や建蔽率を緩和し、土地の高度利用を検討するべき。 • 細長い敷地でも幅員4mの接道を確保できるよう、接道を市道に移管することはできないか。 • 何をしても若い人がいないと感じる。光町1,2丁目では近年小規模な住宅やアパートが増えており、世帯数が増加している。 • まちづくりには若い人の意見を重視して集めていくべき。 • 若者の定住促進方策が必要である。 • 若い人が自治会に入らず、自治会の役員も世代交代ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全に歩いたり自転車で走れる道づくりをしてほしい。 • 高木町は歩道が狭くて怖い。子ども連れの母親は安心して通れない。 • 戸倉通りは狭く、通るのが怖い。自転車も走れない。通学路としても安全面で問題がある。 • 稲荷坂通りもバスが走っているが、狭くて歩行するのに危険である。 • 光町通りは自転車の抜け道になっている。 • 稲荷坂通りは狭く、バスもすれ違えないほどなので、自転車での利用を控えている。 • 都市計画道路だけでなく、生活道路の整備計画もしっかり作るべき。 • 主要生活道路は幅員6m以上、バス通りは10m以上あると理想的。 • 都市計画道路、主要生活道路による道路網の骨格を決め、まずはそこだけでも幅員6m以上に整備するべき。また、それらの道路に接する道路は幅員4m以上に順次整備してもらいたい。 • 道路幅を確保するためには、新しい方策を考えないと進まない。例えば建蔽率を緩和し、沿道の地主が共同でビルを建てるように指導することはできないか。 • 第2小学校の東西道路が狭く、危険である。 • 第2小学校の通学路を通る小学生と、ひかり保育園に子どもを送る母親の自転車が交差するので、危ない。 • 第8小学校に入る道が急に狭くなっており、危ない。 • 空き家が点在しており、近年増加している。更地にして道路用地に活用できないか。 • 立川に行く道路も整備が不十分である。 • 高木町から国立方面に行く道が狭い。バス通りとしても狭いのではないか。 • 高木町のバス通りは、3・4・10号線だけは幅員6m以上あるが、他の通りは4m程度しかない。 • 都市計画道路については、整備に時間がかかるかもしれないが、計画決定している以上その通りに進めていってほしい。 • 3・4・9号線、3・4・16号線の整備を立川市と連携して進めてほしい。稲荷坂通りを改善し、接続することができるのではないか。 • 幹線道路は近隣市と協力し、広域連携を図ることが重要である。 • 国分寺駅北口の再開発ばかり進んでいるが、他の地域も利便性を向上させてほしい。最優先に進めるべきは道路整備である。 • 30年ほど前に国分寺市に移り住んだ時に、都市計画道路の計画もあり、道路が広くなると期待していたが、全く進んでいない。 • 車社会の時代にも関わらず国分寺市は道路が貧弱なので、市外からの人が入ってこない。 • 国立市では一方通行もある。格子状に道路が整備されているからこそできる。一方通行にするには沿道住民の理解も必要だが、交通の改善のための方法として考えられるのではないか。 • 交差点を改良し、渋滞を減らすべき。 • 国分寺高校東通りでは、歩道の整備が少しずつ進んでいるが、整備が遅く、まだ不十分である。 • 内藤橋通りは緊急輸送道路になっているので、早く整備を進めてほしい。 • 市の北西部はぶんバスが少ない。 • 高齢者でも広い範囲で活動できるよう、公共交通、バスの整備を充実させてほしい。 • 立川駅の駐輪場は有料だが広く、国立駅より利用しやすい。 • 自転車で、国立駅や光公民館を行っているが、光公民館の駐輪場が不足している。

緑・景観形成	安全・安心
<ul style="list-style-type: none"> • 地域の人が集まれる場所が、西町緑地以外にない。西町緑地も借地なので、市の公園があるとよい。 • 第2小学校の裏で、子どもが道路で遊んでいて危ない。子どもが安全に遊べる公園は必要。 • 小さい子どもが遊べる公園、ボール遊びができる公園、散歩の途中で休憩できる公園など、各地域に合った公園づくりが必要である。 • 特別養護老人ホームが建設されているが、周辺に自由に利用できる公園がない。 • 小規模公園は十分に活用されていないのではないか。遊具が古くなったり錆びていたり、撤去されてしまうと子どもの利用は少なくなる。 • けやき台団地の公園は、いわゆる遊園で、周辺地域の子どもも利用している。 • けやき台団地の北側にある円盤公園はよく利用されているが、南側の公園は利用が少ない。もっと活用されるように工夫をしてもらいたい。 • 第2小学校裏の開発が進められているが、公園が確保されていない。 • 弁天八幡宮、観音寺が都市計画公園に指定されているが、どのように整備していく計画なのか。 • 小さい公園は利用率が高くないので、これ以上増やさなくてよい。大きな公園を整備してほしい。 • 市の公園で、看板の記載内容が古いままのところがある。管理が行き届いていないのではないか。 • 崖線は市特有の資源であり、守っていくべきである。樹林地は残してほしい。崖線が上下で分断されているが、連続性を持たせた方がよいのではないかと。崖線地域でも緑がないところもある。 • 崖線区域は、緑を確保するために市でも優遇措置や支援をするべき。 • けやき台団地や鉄道総研に緑が残っている。市の土地ではないが、緑地や公園を確保できるよう協力してほしい。 • 鉄道総研は緑が多く残っているが、年1回しか地域に開放されていない。もっと地域に開放してもらい、災害時にも協力を仰げないか。 • 鉄道総研は緑豊かだが、地域住民は入れない。生態系にも乏しいのではないかと。 • けやき台団地は緑が多い方だが、緑を維持するのは大変である。保存樹木の制度を充実させ、市でも支援してもらいたい。 • 崖線の保全は必要だと思うが、市内の緑の在り方を総合的に検討するべき。先日のNHKの野川の番組で、国分寺市内の部分は取り上げられなかった。近隣市と比べて、野川の整備が立ち遅れている。 • 緑の在り方、価値観は変わってきているのではないかと。大きな樹木や芝など、自然の緑が必ずしも良いとはいえないのではないかと。 • 胎内掘跡は少しずつ活用されているので、市でも整備を支援してほしい。子どもの教育や観光、地域活動にとっても価値がある。 • 南部の国分寺駅、武蔵国分寺跡などに比べて、北西部は観光・景観資源が少ないと感じる。 • 戸建住宅で緑を取り入れるかどうかは、敷地の大きさにもよる。狭い敷地では生垣を植える場所がとれない。行政から支援、助成があるとよい。 • 生垣はきれいだが、維持管理に費用がかかる。 • 特定の路線沿道や地域全体で緑化に取り組むのはよい。生垣は手入れが大変なので、植木鉢でも良いなど、取り組み方にも工夫をしてはどうか。性別によっても、ガーデニングへの興味は違いがあるのではないかと。 • 生垣助成、ブロック塀撤去助成が十分に広報されていないのではないかと。 • ブロック塀より生垣の方が面積が大きいので、ブロック塀を撤去しても生垣にするスペースがない場合もあるのではないかと。 • 国立の富士見台団地ではブロック塀の撤去を進めていると聞いた。まちあるきに参加して、良い生垣等の例を勉強しており、そうした機会があるのは良い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 防災上の観点からも、都市計画道路の整備は必要である。 • 第8小学校の南側の道路が狭い。災害時に利用できるか不安。 • 災害時に消防車が入ってこれない道が多い。JRの高架に遮られると逃げ場がない地域なので心配。地域内に消火栓も少なく、災害時は取り残された地域になる可能性がある。 • 高木町は古い建物が多いので、災害時が心配。 • 火災件数は多くないが、高齢者による火事が多くなっている。地震による火災、延焼が不安。 • 道路が狭いのに、用途地域の変更によって高層の建物が増えると、災害時が怖い。 • 防災まちづくり推進地区に指定されたが防災倉庫が設置された公園がないので、設置する必要がある。 • 西町、光町の周辺は、市の防災放送が聞こえづらい。立川市の放送の方がよく聞こえる。 • 西町では、市の避難場所まで遠く、国立市の避難所に協力をお願いしている。国立市の避難所は設備用品が充実している。 • 鉄道総研について、研究所なので機密性はあるかもしれないが、災害時には避難場所として活用できるよう協力してもらいたい。 • 市の人口は増えているが、空き家も増加している。雑草やゴミ屋敷化など、防犯上も問題があると思う。 • 戸建の高齢独居が多いが、施設に移るなどして空き家になる可能性がある。市が主導して高齢者向け住宅、公園等を整備し、移り住んでもらうのはどうか。 • 光町で、私道に立っている街路灯が誰の管轄か不明だった。自治会で取り換える費用を市に申請した。 • 災害時に崩れることを考えると、ブロック塀はない方がよい。しかし、防犯面では敷地内を目隠しできるブロック塀も悪くはない。 • 住宅地内の道は、ブロック塀の倒壊が懸念される。 • 警察、消防の管轄が市内でいくつかあるため、連携不足など防犯上の問題があるのではないかと。 • 国分寺に警察署がないのは不安。小金井警察は遠く、地域の問題にきめ細かくに対応できないのではないかと。 • 警察署、交番がないのは困る。西町のけやき台にあった交番では、犯罪抑止力があるか不安だった。新しく駐在所ができたので以前より安心感ができた。 • お祭りの時の駅の管理は、国分寺駅と西国分寺駅は小金井警察署、国立駅は立川警察署が管轄している。 • 西町ではひったくり等の犯罪が増加している。